

ネットワークアンケート ④3

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 糖尿病患者さんは健常者よりも風邪やインフルエンザにかかりやすいとお感じになりますか？

冬になるとインフルエンザに感染する人が増えてきます。糖尿病がある人は感染しやすく、治りにくく、重症化しやすいとして国の感染症対策ではハイリスク群とされており、予防啓発が必要です。今回のアンケートでは、インフルエンザの予防策に加え、罹患時の糖尿病薬の対処やシックデイの指導などの状況についてうかがってみました。

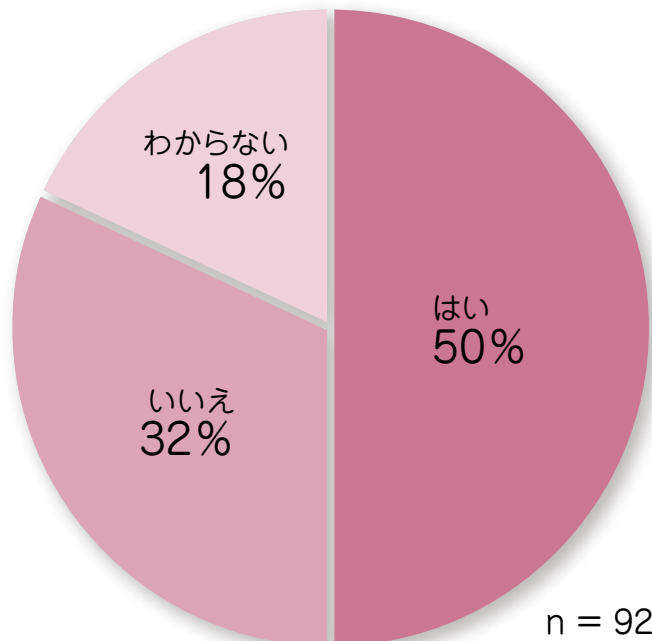
[回答数：医療スタッフ92名（医師20、看護師40、管理栄養士12、薬剤師10、臨床検査技師3、その他7など。うち日本糖尿病療養指導士33、糖尿病看護認定看護師6）、患者さんやその家族424名（病態/1型糖尿病146、2型糖尿病252、境界型19、その他7、治療内容/食事療法318、運動療法261、経口薬246、注射薬28、インスリン療法226/重複回答有）]

ちょうど半数の方が「はい」と答え、健常者よりも感染しやすいと感じているようです。毎年インフルエンザに罹患する糖尿病患者さんは全体の「20%以下」と回答した方が最も多く48%でしたが、実際に罹患したかどうかを把握するのは難しいようで、3割は「把握していない」とのことでした。

予防策としては、インフルエンザの予防接種、手洗いやうがいの励行など、8割の医療スタッフが指導を行っていると答えています。また、最近行われるようになった予防策「家族がかかったら、予防のために抗インフルエンザ薬を処方してもらう」といった指導はあまり行われていないようで13%

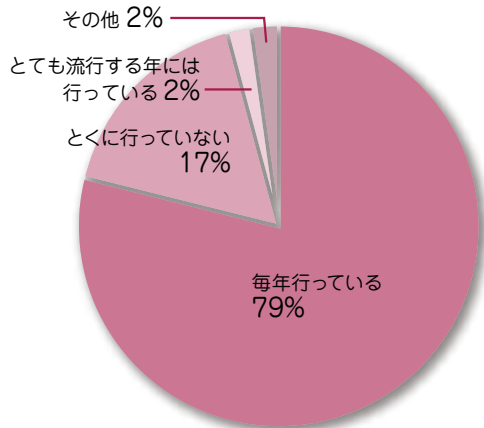
でした。

インフルエンザ治療中の糖尿病薬の対処については、「投薬中の患者さん全員に指導を行っている」が32%、「必要時に指導を行う」が30%と、指導はルーティンでない状況があるようです。風邪やインフルエンザに罹患すると脱水を起こす可能性があることから、SGLT2阻害薬を服用している患者さんには休薬をさせ、受診させることが好ましいとされていますが、服用者はまだ限られているので実際にその指導を行っている人は3割程度でした。

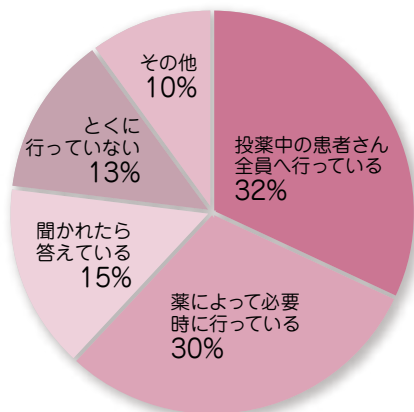


自由記述では、「血糖コントロールが悪い方に注意を促す際、わかりやすい例としてインフルや感冒が治りにくいことを話している」、「当院は予約外来なので、風邪と思ったら早期に一般医家を受診するよう指導している」、「予防接種後の副作用を怖がる患者さんに対する説明資料がほしい」といった声が寄せられました。

Q. インフルエンザの予防接種を受けるよう指導を行っていますか？ (n=92)



Q. インフルエンザ治療中の糖尿病薬について指導を行っていますか？ (n=92)



Q. SGLT2阻害薬を服用中に罹患した際、休薬するよう指導を行っていますか？ (n=92)

